

大山自治会の佐藤良子相談役と橋本久行
会長＝東京都立川市で（池田まみ撮影）



孤独死させない団地

**みんなが
まちを
変える**
主人公 ③

「日本一住みたい団地」
とも言われる東京都立川市
の都営上砂町一丁目アパー
ト（通称・大山団地）にあ
る「大山自治会」。高齢者
の孤独死が社会問題化する
中、20年以上前から「孤独
死ゼロ」を掲げ、ご近所同
士の見守りを続けている。
取り組みは1999年に

自治会長に就任した佐藤良
子さん（82）＝現在は相談役
＝が始めた。「自治会じゃ
ないと、地域を隅から隅ま
で知ることとはできない。行
政の手の届かないところを
どうするか、考えていく必
要がある」。契機となった
のは、この団地で暮らして
いた一人の住民の死だっ
た。

2面へ続く

寄り添い 行動する自治会

みんなが主人公
まちを変える

1 2 3 4 5

1面から続く

「同じ団地に住んでいた人が、こんな味気ない最期なんて」

佐藤良子さんが1999年、東京都立川市の通称・大山団地の自治会長になった直後のこと。警察官とともに団地の一室に入ると、独特な臭いと、うじのわいた遺体があった。孤独死の現実を目の当たりにした佐藤さんは「孤独死のない自治会をつくらう」と心に決めた。

「いつも見かけていた人がいない、窓が開いたままなど、少しでも異変に気づいたら連絡を」。佐藤さん



大山自治会の取り組みなどについて話す佐藤良子相談役②、橋本久行会長①＝東京都立川市で

大山自治会 1963年に完成した通称・大山団地（東京都立川市）の住民自治組織。高齢者の見守りや子育て支援、緊急時に備えた全世帯名簿の作成などに取り組んできた。東日本大震災では被災者を受け入れた。

を自指す市が、高齢者へのごみ出しサポートなどをしてきた大山自治会に依頼し、11年に始まった。

こうした事例を聞き、各地の自治会関係者が視察に訪れる。ただ、佐藤さんから8年前に会長を引き継いだ橋本久行さん(65)は「同じようにやるのは難しいだろ」と冷静に見る。都営住宅は自治会加入が入居条件なので加入率は100%。一方、各地の自治会加入率は低下し、立川市でも

20年時点で約38%だ。一方、大山自治会でも高齢化の影響は免れられそうにない。都営住宅の入居に年収上限があるのも一因で、現在は約3500人のうち、65歳以上が約4割を占める。佐藤さんは「5年後、10年後はどうなるか」と危機感を抱いていた。

そこで12年前から大学生に自治会活動への参画を呼びかけている。今は都内二つの大学の学生が、地域活動をテーマとしたセミナーの一環で参加する。役員会にも加わり、自治会主催の祭りではブースを企画・運営をする。佐藤さんは「これからの自治会は、学生の参加や隣の自治会の依頼を受けて動くなど、新しい形を模索しないと」と力を込める。

団地の枠にとらわれない活動。「誰も困らない街にしたい。ここに一生住み続けたいという環境をつくらなければならない」。これが佐藤さんの原動力になっている。(渡辺真由子)

降、大山団地で孤独死はゼロになった。

他にも、ボランティアによるパトロール隊の結成や趣味サークルの立ち上げ支援、安価での自治会葬などの活動を次々に展開。このためか、団地への入居を希

望する人が絶えない。「行政には頼らない。むしろ行政から頼られるくらいじゃない」と胸を張る。

その一例が、可燃ごみから分別した生ごみを堆肥化する立川市の「生ごみ分別・資源化事業」。ごみ減量